

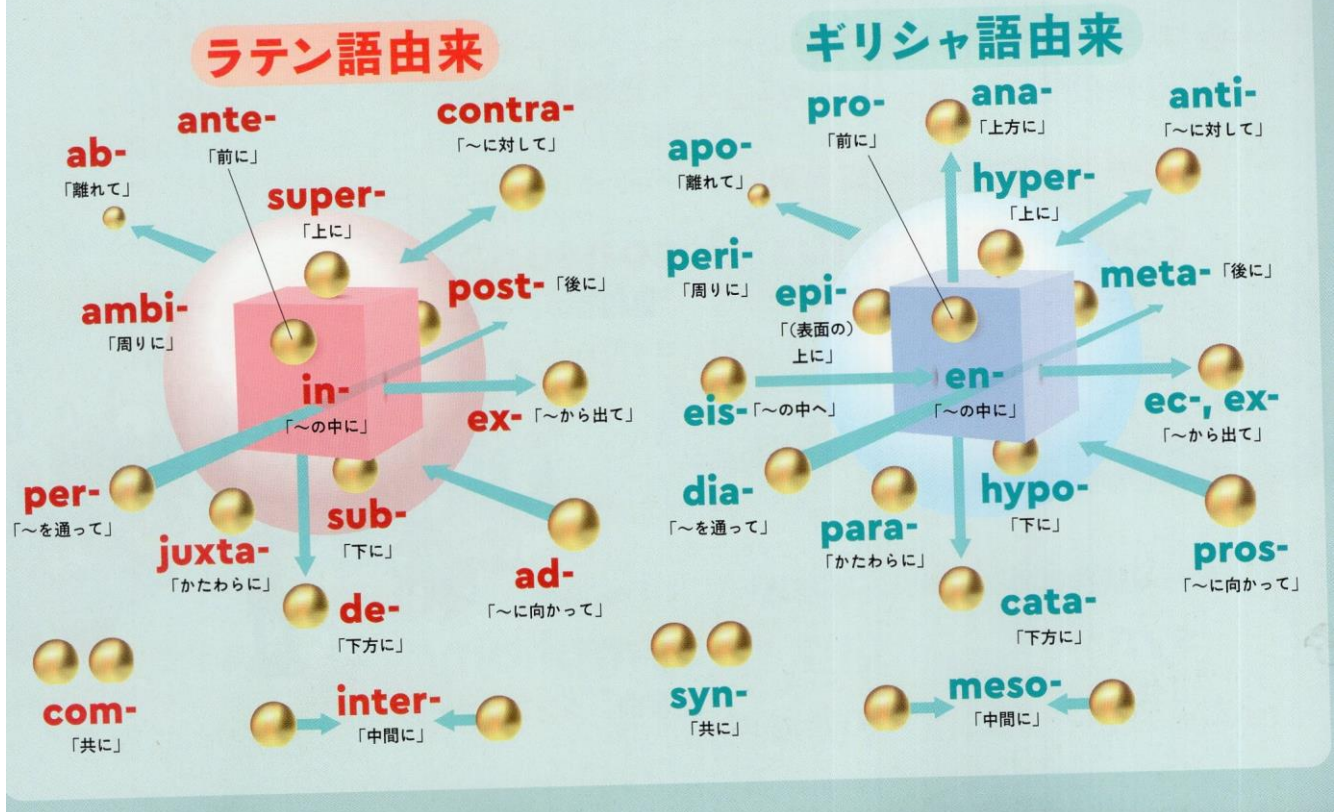
英語の「借用語」の歴史

古代ローマ人は、政治的にはギリシャを征服しましたが、文化では逆にギリシャ人に圧倒されてしまいました。そのため、古代ローマ人の言語であるラテン語に、ギリシャ語の単語が専門的な事柄を説明する借用語として取り込まれました。その後、ラテン語は土地ごとに訛っていき、フランス語やイタリア語、スペイン語などに分かれます。やがて、フランスのノルマンディー地方の君主に征服されたイギリスでは、上流階級はみなフランス語を話すようになり、一般民衆の英語の中にもフランス語が入り込んで、ルネサンス期の学者たちは、さらにラテン語やギリシャ語を英語の中に借用語として取り込みました。

こうして、島国イギリスは大陸からの侵略を度々受けたために、借用語が幅を利かせた言語となり、やがて世界でもっとも語彙が豊富な言語となったのです。

接頭辞には「位置」「方向」「時間」を表すものがよく使われる！

英語の接頭辞には、上下左右の位置や方向、また前後の時間を表すものが多い。この図の概要が頭に入っていると、新たな英単語を覚える際に、必ず役立つであろう。



「みぞおちの上」——日本語はあいまい。


Part I

さまざまな「上に」hyper-, epi-, ana-

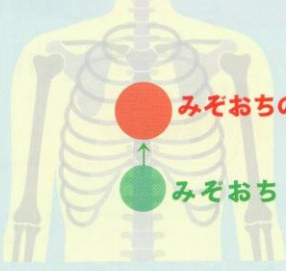
厳密な意味の違いがあるギリシャ語の接頭辞

「みぞおちの上に」手を置いてください

「みぞおち」とは肋骨より下で、へそより5cmくらい上の部分のこと。

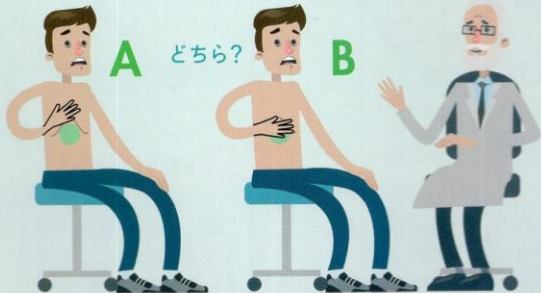


「みぞおちの上のあたりに痛みがある」という場合はAを意味するだろう。患者は「みぞおちの上」という表現を、みぞおちよりも「上下関係での上」と解釈している。




医師に「みぞおちの上に手を置いてください」と言われた場合、あなたはどこに手を置くだろうか？

A どちら? B



しかし、「みぞおちの上のあたりに痛みがある」という場合はどこが痛いだろうか？

Bの場合、患者は「みぞおちの上に」という表現を、みぞおち付近で「皮膚の表面上か、皮膚より奥かどうかという観点で表面上に」と解釈している。



つまり、日本語の「～の上に」という表現は、文脈によって判断しなければならず、とてもあいまいである。

エピネフリン epinephrine

アドレナリン adrenaline と同義語

ante- 場所が「前」にあること、また時間的に「前」であることを示す。

antemeridian 午前の AM a.m.

meridian 【名】 子午線、経線 [太陽の] 最高点 [繁栄などの] 頂点、全盛期 《針療法》 経絡

pregnant 妊娠した

ファリッド
forehead
ひたい
「額」



fore-「前に」+ head「頭」。アメリカでの発音はフォアヘッドではなく、ファリッドのように短縮されている。

フォーフィンガ
forefinger
「人差し指」
「前に」向かって突き出す指。



post- 「後ろへ、後の」

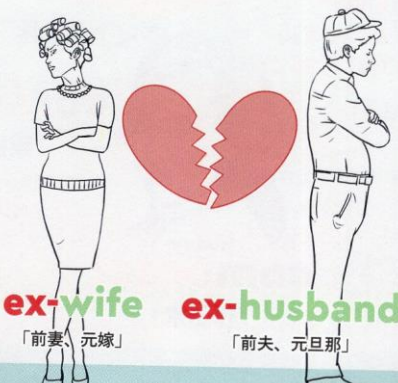
postmeridian 午後の PM p.m.

soon-to-be-ex-wife 【名】 もうすぐ離婚する妻

役立ち TOPICS 19

前妻は ex-wife? exwife?

ex- が「元～・前～」を意味する場合、たいてい ex-wife のようにハイフンが付く (exwife は誤りであるとする見解もある)。ちなみに前妻は ex-wife だが、前の前の妻は ex-ex-wife、もうすぐ離婚する妻は soon-to-be-ex-wife という。



ex-wife 「前妻、元嫁」
ex-husband 「前夫、元旦那」

- ex-army** 「元軍人」
- ex-boyfriend** 「元カレ」
- ex-con** 「前科者」 (ex-convict) (convict…受刑者、囚人)
- ex-cop** 「元警官、元お巡りさん」
- ex-demo** 「元展示品」
- ex-employee** 「元従業員」
- ex-president** 「元大統領、元社長」

soon-to-be-ex-employee

~~~~~

**soon-to-be** すぐに～になる予定 [見込み] の

soon-to-be dismissed employee

じきに解雇される社員

soon-to-be ex

〈話〉 もうすぐ別れる予定の伴侶 [恋人]

~~~~~

アンティクックワイズ



anticlockwise

「反時計回りの」

ギリシャ語 anti- + clockwise 「時計回りの」
同義語に counterclockwise がある。

カウンタックワイズ

counterclockwise

「反時計回りの」

否定には「n」がお似合い？

un-, in-, non-, an- …… たしかに「n」がある！

否定の接頭辞は、接頭辞の中でも特に頻繁に用いられる

否定の接頭辞は種類が多い。中でも一番使われているのが「un- アン」である。他にも「in- イン」「non- ナン」「an- アン」がある。それらはゲルマン語、ラテン語、ギリシャ語由来の接頭辞である。

un-
「否定」
ゲルマン語
由来

unable
「できない」
ゲルマン語接頭辞 un- + able
「できる」→ unable「できない」。

unhappy
「不幸な」
ゲルマン語接頭辞 un- + happy
「幸福な」。

in-
「否定」
ラテン語
由来

injustice
「不正」
ラテン語接頭辞 in- + justice
「正義」→ injustice「不正」。



independent
「独立した」
ラテン語 in- + dependent「従属関係」。

non-
「否定」
ラテン語
由来

nonsense
「ナンセンス、無意味」
ラテン語接頭辞 non- + sense
「意味、感覚」。

nonstop
「ノンストップ、直行の」
ラテン語接頭辞 non- + stop
「停止、ストップ」。

a-, an-
「否定」
ギリシャ語
由来

nonsense
「ナンセンス、無意味」
ラテン語接頭辞 non- + sense
「意味、感覚」。

nonstop
「ノンストップ、直行の」
ラテン語接頭辞 non- + stop
「停止、ストップ」。

anonymous
「匿名の」

ギリシャ語 an- + onoma「名前」。

nonsense
「ナンセンス、無意味」
ラテン語接頭辞 non- + sense
「意味、感覚」。

nonstop
「ノンストップ、直行の」
ラテン語接頭辞 non- + stop
「停止、ストップ」。



in-にも強い否定がある。inhuman

役立ち
TOPICS
24

non-American と un-American、何がどう違う？

→ non- は、単に否定や欠如を示す感情の伴わない中立的な表現。
un-, in- は、より意味が強く、より否定的な意味を持つ。

non-American
「(単に) アメリカ人ではない」

感情を交えずアメリカ人・アメリカ的ではないという意味。
固有名詞ではハイフン付きの non- や un- を使う。

un-American
「反アメリカ的な」

習慣・主義などが「米風国に合わない」という意味から、un-American activities「非米活動」のようにあからさまな対立も意味する。

否定の接頭辞 non- は「非〜」や「無〜」、「不〜」と訳される。

nonprofit 「非営利の」 **nonsense** 「無意味」

nonstop 「ノンストップの、止まらない」 **nonflammable** 「不燃性の」

nonhuman
「(単に) 人間ではない」

人間ではない動物や、ファンタジーの世界であれば人間以外の種族などを指す。

inhuman
「非人間的な、非人道的な」

「非人間的な、人間味のない」という冷酷・残酷な行為に対して使われる。



nonmoral
「道徳に無関係の」

「モラルとは関わりのない」や、「超道徳的な」という意味。モラルを破っているわけではない。

immoral
「不道徳な、ふしだらな」

「不品行な、わいせつな、淫らな」事柄などのモラルに反する事柄を指す。

amoral
「道徳観念のない」

「モラルという感覚を持っていない」「善悪の判断のない」という意味。

ギリシャ語由来の接頭辞 a- は、「〜がない、〜が欠けている」という意味での否定を指す (→ p.82)。

amethyst アメジスト、紫水晶



アメジストセージ 宝石のアメジストを思わせる花色が特徴.



~~~~~

**tachymeter**  
「タキメーター」

タキメーターは、平均速度がわかる時計盤の目盛りのこと。例えば、1km 走った後にストップウォッチ（クロノメーター）の針は36秒のところにあるが、タキメーターの目盛りでは約100 (km/h) を指している。

~~~~~

タキメーター機能とは、自動車などのおおよその走行時速を測る機能です。 タキメーター機能を使用して1km を何秒(測定可能範囲 60 秒以内)で走行したかによって、その区間のおおよその平均時速を求めることができます。

~~~~~

オノマトペはフランス語から。

アノマトペーア

## onomatopoeia

「オノマトペ、擬声語」

ギリシャ語連結形 onoma「名前」 + poieo<sup>ポイエオー</sup>「作る」。本来はギリシャ語では「造語」という意味だったが、特に擬声語に用いられるようになった。日本語のオノマトペはフランス語の onomatopée から。擬声語は、擬音語（カーカーなど）と擬態語（サラサラなど）の総称。

|                                                                                                                                            |                                          |                                                                                |                                                               |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| <p>オインク [ɪŋk]</p> <p><b>ブーブー</b></p> <p>ムームー [mu: mu:]</p> <p><b>MOO</b><br/>MoO</p> <p>モー</p> <p>クー [ku:]</p> <p><b>COO</b></p> <p>クー</p> | <p><b>Oink!</b></p>                      | <p>シューツ</p> <p>ヒス [his]</p> <p><b>Hiss</b></p>                                 | <p>ズィーズィーズィー</p> <p>[zi: zi: zi:]</p> <p><b>ブーン Z-Z-Z</b></p> |
| <p>クワックワック [kwæk kwæk]</p> <p><b>quack</b> ケロケロ</p> <p>クワック</p>                                                                            | <p>フーツ [hʊt]</p> <p><b>HOOT</b> ホーホー</p> | <p><b>BAA!</b></p> <p>バー [ba:]</p> <p><b>メー</b> 英語と日本語のオノマトペでは、違いの多いものが多い。</p> | <p>ミアウ [miau]</p> <p><b>MEOW</b></p> <p>ニャオ</p>               |

ビブリオファイル

# bibliophile

「本好き、蔵書家」

ビブロス  
ギリシャ語 biblos 「本」  
+ -phile 「好む者」。

Worcester

ウスタ

## Worcester

「ウォゴルナ族」+「城」

「ウスター」

難読な地名の代表格。もともとはアングロサクソンの Weogorna ウォゴルナ族の町という意味だったが、発音がかなり省略されて現在に至った。この町はウスターソースの発祥の地である。



## Part II 数字を表す連結形

ラテン語ルーツとギリシャ語ルーツの言葉を探る

数字を表す連結形をラテン語由来とギリシャ語由来のもので並べてみると…

### ラテン語

|                        |          |                                       |
|------------------------|----------|---------------------------------------|
| 1 <b>uni-</b>          | ユニフォーム   | <b>uniform</b> 「ユニフォーム」               |
| 2 <b>bi-</b>           | バイエニアル   | <b>biennial</b> 「2年ごとの」               |
| 3 <b>tri-</b> (ter)    | トライカラ    | <b>tricolor</b> 「3色旗」                 |
| 4 <b>quadri-</b>       | クワドリセプス  | <b>quadriceps</b> 「(大腿)四頭筋」           |
| 5 <b>quinta-</b>       | クワインテット  | <b>quintet</b> 「五重奏、五重唱」              |
| 6 <b>sexa-</b>         | セクスタント   | <b>sextant</b> 「六分儀」                  |
| 7 <b>septi-</b>        | セプティメイナ  | <b>septimana</b> 「一週間」 ※短時間で使われる      |
| 8 <b>octa-</b> (octo-) | オクタヴィアヌス | <b>Octavian</b> 「オクタヴィアヌス」            |
| 9 <b>novem-</b>        | ノヴエムバ    | <b>November</b> 「11月」 ※昔のローマ暦では9月だった  |
| 10 <b>decem-</b>       | デカセムバ    | <b>December</b> 「12月」 ※昔のローマ暦では10月だった |
| 100 <b>centi-</b>      | セントィピード  | <b>centipede</b> 「ムカデ」                |
| 1000 <b>milli-</b>     | ミレニアム    | <b>millennium</b> 「千年間」               |

### ギリシャ語

|                   |          |                                   |
|-------------------|----------|-----------------------------------|
| 1 <b>mono-</b>    | モノトーン    | <b>monotone</b> 「モノトーン」           |
| 2 <b>di-</b>      | ディレマ     | <b>dilemma</b> 「ジレンマ」             |
| 3 <b>tri-</b>     | トライアスロン  | <b>triathlon</b> 「トライアスロン」        |
| 4 <b>tetra-</b>   | テトラポッド   | <b>tetrapod</b> 「テトラポッド」          |
| 5 <b>penta-</b>   | ペンタゴン    | <b>pentagon</b> 「五角形、ペンタゴン」       |
| 6 <b>hexa-</b>    | ヘキサゴン    | <b>hexagon</b> 「六角形」              |
| 7 <b>hepta-</b>   | ヘプターキ    | <b>heptarchy</b> 「(アングロ・サクソン)七王国」 |
| 8 <b>octo-</b>    | オクトパス    | <b>octopus</b> 「タコ」 ※八本足の意        |
| 9 <b>nona-</b>    | ナナジャーニアン | <b>nonagenarian</b> 「90代の人」       |
| 10 <b>deca-</b>   | デカログ     | <b>Decalogue</b> 「モーセの十戒」         |
| 100 <b>hecto-</b> | ヘクタール    | <b>hectare</b> 「ヘクタール (ha)」       |
| 1000 <b>kilo-</b> | キログラム    | <b>kilogram</b> 「キログラム」           |

同じ印欧祖語に由来することが多いため、ラテン語とギリシャ語でスペルが似ているケースが多い。



# 「される人」を表す -ee

アングロ・ノルマン語に由来する接尾辞

## -ee が付く場合

接尾辞 -ee は、アングロ・ノルマン語で過去分詞を作る接尾辞 -é もしくは -ee に由来する。他動詞に付いて、受動態の「される人」を表す。法律用語では -or 「する人」と -ee 「される人」がしばしば対比をなしている。

- employ 「雇う」 → **employee** 「従業員」  
(⇒ **employer** 「雇い主」)
- train 「訓練する」 → **trainee** 「訓練を受ける人」  
(**trainer** 「訓練者、トレーナー」)
- abduct 「誘拐する」 → **abductee** 「拉致被害者」  
(⇒ **abductor** 「誘拐犯」)



強勢は必ず ee に

interview**ee**



強勢は er が付く前と同じ場所

interview**er**

※このページでは強勢の位置を「」で示している。

interview 「インタビューする、面接する、会見する」

→ **interviewee** 「インタビューを受ける人」

(⇒ **interviewer** 「インタビュアー、面談者」)

examine 「試験する」 → **examinee** 「受験者」

(⇒ **examiner** 「審査員、試験委員、検察官」)

nominate 「指名する」 → **nominee** 「受取名義人」

(⇒ **nominator** 「指名者」)

detain 「引き止める」 → **detainee** 「外国人抑留者」

(**detainer** 「不法拘置、拘禁、監禁」)

license 「認可する」 → **licensee** 「免許を受けた人」

(⇒ **licensor** 「認可者、許諾者」)

let 「貸す」 → **lessee** 「賃借人、借地人、借家人」

(⇒ **lessor** 「貸地人、貸家人」)

vend 「売る」 → **vendee** 「買い手、買い主」

(⇒ **vendor** 「売り主、行商人」)

## 役立ち TOPICS

### -ize, -ise ではどう違う？

59 → 傾向として -ise はイギリス英語で、  
-ize はアメリカ英語で使われる。

オクスフォード英語辞典やブリタニカ百科事典、ロンドンタイムズでは -ise が採用されたことも影響し、イギリスでは、-ise が主流となった。左図のように、語源からすれば -ize がより正しいのに、なぜ -ize に統一されないのだろうか？ 一説には、語尾が「～アイズ」と発音される動詞すべてがギリシャ語由来ではなく、少数ながら子音が z ではないラテン語に由来のものがあるため、すべてを -ize にすることに学者たちが違和感を感じたのだらうと言われている。とはいえ、ラテン語由来は -ise に、ギリシャ語由来は -ize というように区別させるのは一般の人には負担になると考え、ならばいっそのこと、一律に -ise にしようという流れになったとも言われている。アメリカでは、由来にこだわらずに -ize が使われていることが多い。以下は -ize だが、ラテン語由来の語の例である。

「宣伝する」 英語 **advertise**, 米語 **advertize**

「驚かせる」 英語 **surprise**, 米語 **surprize** (これはまれ)

「考案する」 英語 **devise**, 米語 **devize** (これもまれ、間違いとされることもある)

ハイフンを付ける・付けないにルールはあるのか？

→ 付ける・付けないは単語ごと、時代ごとに異なる。単語同士の結び付きが強いとハイフンが付き、さらに強いと一語になる。

|       |                  |
|-------|------------------|
|       | ティーンエイジャー        |
| 分離型   | <b>teen ager</b> |
| ハイフン型 | <b>teen-ager</b> |
| ソリッド型 | <b>teenager</b>  |
|       | 「ティーンエイジャー」      |
| 分離型   | <b>base ball</b> |
| ハイフン型 | <b>base-ball</b> |
| ソリッド型 | <b>baseball</b>  |
|       | 「野球」             |

複合名詞には、2語以上の語をスペースで区切っているもの(分離型)、ハイフンでつないだもの(ハイフン型)、つながって1語になったもの(ソリッド型)がある。意味は同じだが、その語が広く使われるようになると、ハイフン型やソリッド型として表記されることが多くなる。とはいえ、分離型かハイフン型かソリッド型なのかは統一していないことがあり、また時代で変化する。例えば、teenager「ティーンエイジャー」やbaseball「野球」という表現が広まったため、teenagerやbaseballという表現は現在ではほとんど見られない。

野球の表記には3種類があり得る。もっとも初期の頃にはbaseball(分離型)だったが、今ではbaseball(ソリッド型)が一般的になっている。



ハイフン hyphen の語源とは？

ハイフン hyphen は、ギリシャ語の hypo-「下に」(p.40) に hen ヘン「一つ」(中性形) が付いた合成語。「一つの下に」、つまり、「一語として」複数の語をまとめるものであることを表す。ちなみに、hypo- が母音に付くときは hyp- の形となり、次の h- と結び付いて -ph- となる現代英語ではこの -ph- は [f] と発音される。

過去分詞を用いた複合形容詞

このページの中の語には、ハイフンを使わず1語として扱われるものもある。

well- + 過去分詞や、self- + 過去分詞、highly- + 過去分詞といった表現はいろいろな動詞と組み合わせられている。

- well-known 「有名な(よく知られた)」
- well-liked 「人気がある、モテモテの(よく好かれた)」
- well-bred 「育ちのよい(よく育てられた)」
- well-dressed 「身なりのよい、小ざれいな(よく着飾った)」
- well-behaved 「行儀のよい(よく振舞った)」
- well-adjusted 「社会にうまく適応した(よく調整された)」
- well-informed 「見聞の広い(よく情報を与えられた)」
- well-respected 「高く評価された、尊敬された」
- highly-organized 「高度に組織化された」
- highly-optimized 「最適化された(高度に能率化された)」
- highly-motivated 「モチベーションが高い」
- highly-recommended 「一推しの(高度に推薦された)」
- highly-accelerated 「高加速の」



- self-trapped 「自縄自縛の(自らを罠にかけた)」
- self-absorbed 「自己陶醉の、自己中心的な(自分に夢中の)」
- self-explanatory 「自明の(自ら明らかな)」
- self-assembled 「自己組織化した(自ら集合した)」
- self-reported 「自己申告性の」
- self-employed 「自営の(自らを雇った)」
- red-headed 「赤い髪の」
- long-haired 「長い髪の」
- thick-lipped 「唇の厚い」
- big-eyed 「大きな目の、驚いた」
- cream-colored 「クリーム色の」
- long-necked 「首の長い」



well- や self- はいろいろな動詞に結び付いて複合形容詞を作る



Part **IV** 『かばん語』と『鏡の国のアリス』  
 言葉の一部をつなぎ合わせた合成語の正体

portmanteau 「かばん語」とは？



産業革命によって石炭を多く使用するようになったイギリスでは、大気汚染物質の粒子が核となった霧が頻繁に発生した。公害によって生まれたこの霧は **smog** スモッグと名付けられた。この語は、**smoke** 「煙」の最初の数文字と **fog** 「霧」の後ろの数文字を掛け合わせた合成語である。

**smoke** + **fog** = **smog**  
 「煙」 「霧」 「スモッグ」

このように言葉の一部をつなぎ合わせて作られた合成語のことを英語で **portmanteau** という。このポートマントーとは、旅行かばん、特に革製で両開きの旅行用トランクを指す。そのため、「かばん語」もしくはその作り方から **blend** 「混成語」ともいう。



ポートマントー（かばん語）という名は、ルイス・キャロル作『鏡の国のアリス』の中で、卵のハンブレイ・ダンブレイが語った言葉に由来する。ハンブレイ・ダンブレイはアリスに『ジャバウォックの詩』という詩の中の難解な言葉を説明し、「**slithy**（スライズイ）という言葉は、**lithe**（ライズ）「しなやか」で **slimy**（スライミ）「ヌルヌルしている」ことじゃ。この言葉は portmanteau 「旅行かばん」のようじゃろう — 2つの意味が、1つの言葉に詰め込まれておると述べている。ルイス・キャロルは多数のかばん語を作り出して作品の中に記したが、その中のいくつかは現代英語で用いられている（**galloping** ギャロップ「馬の疾駆」+ **triumph** トライアンプ「凱旋」→ **galumphing** ガランフィング「意気揚々と走る、ドシンドシと歩く」）。



Part **IV** イングリッシュとかばん語  
 Japanese + English = Janglish 「ジャングリッシュ」

国によって難しい発音はそれぞれ

英語は国によって発音や語彙になまりがある。それぞれのなまりを表現するかばん語の俗語が作り出されている。

**Spanish** 「スペイン語」 + **English** 「英語」 = **Spanglish** 「スバングリッシュ」  
 ※ローマ字読みに近い（**first** フィルスト）、アクセントのある母音を長くしがち（**history** ヒーストリ）。

**Hindi** 「ヒンディー語」 + **English** 「英語」 = **Hinglish** 「ヒングリッシュ」（インドなまり）  
 ※ローマ字読みに近い（**sugar** スガル）、[ə] が [d] に（**they** デイ）、[z] が [dʒ] に（**reason** リージュン）。

**Chinese** 「中国語」 + **English** 「英語」 = **Chinglish** 「チングリッシュ」  
 ※ [v] が [w] に（**love** ラウ）、語末の子音の簡略化（**nest** ネス）、および無声音化（**believe** ビリフ）。

**Korean** 「朝鮮語」 + **English** 「英語」 = **Konglish** 「コングリッシュ」  
 ※ [f] が [p] に（**fork** ボク、**self** セルフ）、長音の短音化（**juice** ジュス）、[ts] が [dʒ] に（**pizza** ビジャ）。

**Japanese** 「日本語」 + **English** 「英語」 = **Janglish** 「ジャングリッシュ」  
 ※日本人が L と R を混同しているのを皮肉って、アジア人の話す英語を俗に **Engrish** という。

上記の他にも **Singlish** シングリッシュ（Singaporean シンガポール語）、**Manglish** マングリッシュ（Malayalam マラヤーラム語）、**Franglish** フラングリッシュ（French フランス語）他多数のかばん語がある。ちなみに、フランス語で、**franglais**（フラングレ）はフランス語への英語の借入語を指す。

Japanglish、または Japlish もいう。



## ASAP「なるはや」——句の頭字語

複合名詞だけでなく、句の頭字語も英語のメールによく使われる俗語が多数ある。これらは、大文字だけで書くことも、小文字で書くこともある。

オールソク ノウン アズ アカ  
**Also Known As → AKA** 「またの名を」

「～としても知られている」。

アズ スーン アズ パススィブル エイ エス エイ ビー  
**As Soon As Possible → ASAP** 「なるはや」

「できるだけ速く」

エルオウエル(ロール)  
**Laughing Out Loud → LOL** 「笑」

「大笑い」

アズ ファー アズ アイ ノー アフェイク  
**As Far As I Know → AFAIK** 「調べた限りでは」

「私が知る限りでは」

アイアイアスィー  
**If I Recall Correctly → IIRC** 「記憶が正しければ、確か～だった」

「私が正しく思い出せれば」 ※ recall は remember ともいえる。

エリファイブ  
**Explain Like I'm 5 → ELI5** 「5歳児でもわかるように教えて」

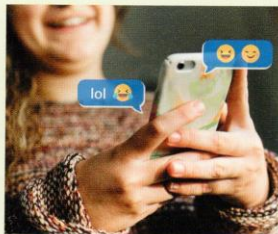
「私が5歳児であるかのように説明して」

エイエムエイ  
**Ask Me Anything → AMA** 「なんでも答えますよ」

「何でも私に聞いて」



イニシャルリズムとして「エイエスエイビー」とも、アクロニムとして「アサップ」とも発音する。



lol は、頻繁に使われているインターネットスラングの一つ。日本語では、(笑) や w (わらい warai の頭文字) が使われている。わらいの w をつなげて www とすると、草や竹が生えているように見えるので (草)、(竹) なる略号も現れた。

ネット上では新たな頭字語が次々と生み出されている！

## NG は和製英語

役立つ  
TOPICS

68


アメリカ人に「OB」と言って通じるか？

→ OB は和製英語 Old Boy「卒業生・先輩」の頭字語。  
和製英語の頭字語には要注意！

和製英語の頭字語はいわば日本語である。欧米人には理解されないので、英会話で使わないように気を付けたい。

**OB「オー・ビー」(Old Boy)**

学校の卒業生、また部活動の先輩のことを日本で OB というが、英語で OB といえば、obstetrics「産科」の略称でよく知られている(ちなみに「産婦人科」は obstetrics and gynecology OB/GYN)。日本ではゴルフに関連して、プレーが出来る区域外に球が出ることも OB という(Out of Bounds アウト・オブ・バウンズ)。




**GW「ゴールデンウィーク」(Golden Week)**

略す前の Golden Week「黄金週間」も欧米の人にはまったく通じない。日本で "Golden Week" と呼ばれている期間として紹介するのであればよいかもしれない。

**PV「ビー・ヴィ」(Promotion Video)**

英語では promotion video ではなく、promotional video というが、英語で PV とは略さない。

**CM「シー・エム」(Commercial Message)**



英語でも commercial message というが(または単に commercial)、CM には略さない。ちなみに CM ソングは、advertising jingle、もしくは単に jingle という。この jingle は「ジングルベル」の場合のように「チリンチリンと鳴る音」という意味だけでなく、コマーシャルソングのように同じ言葉を反復する短い歌も表す。

アルファベットを使っているからといって英語で通用するわけではない



## 時代によってアルファベットの文字は増えたり減ったりした

### 発音の違いで使う文字が変化

フェニキア文字のアルファベットは22文字。この中の **Υ** ツァーディーや **Φ** コフの音はギリシャ語になかったのでギリシャ文字には使われなかった。

ギリシャ文字のアルファベットは基本的に24文字。Υ、Φ、Ψ、Ωをフェニキア文字に追加している。

ラテン文字は、基本的には21文字しかない。Θ、Ξ、Φはラテン語で使わないのでアルファベットからはずされた。さらにギリシャ語のΖもラテン語で使わない発音だったが、ギリシャ語の単語を書き表す時に使っただけだったため、順番がアルファベットの最後に回されてしまった。

英語のアルファベットは、26文字。新たにJやWが追加された。

個々のアルファベットの歴史については、後のページで解説する。

| フェニキア文字 | ギリシャ文字 | ラテン文字  | 英語 |
|---------|--------|--------|----|
| Α       | A      | A      | A  |
| Β       | B      | B      | B  |
| Γ       | Γ      | C      | C  |
| Δ       | Δ      | D      | D  |
| Ε       | E      | E      | E  |
| Ϝ       | (F)    | F      | F  |
| Ζ       | Z      | G      | G  |
| Η       | H      | H      | H  |
| Θ       | Θ      | → 使用せず |    |
| Ι       | I      | I      | I  |
| Κ       | K      | K      | K  |
| Λ       | Λ      | L      | L  |
| Μ       | M      | M      | M  |
| Ν       | N      | N      | N  |
| Ξ       | Ξ      | → 使用せず |    |
| Ο       | O      | O      | O  |
| Π       | Π      | P      | P  |
| Υ       | → 使用せず |        |    |
| Φ       | → 使用せず | Q      | Q  |
| Ρ       | P      | R      | R  |
| Σ       | Σ      | S      | S  |
| Τ       | T      | T      | T  |
| Υ       | Υ      | V      | U  |
| Φ       | → 使用せず | → 使用せず | V  |
| Χ       | X      | X      | X  |
| Ψ       | → 使用せず | → 使用せず | W  |
| Ω       | → 使用せず | → 使用せず | Y  |
|         |        | Z      | Z  |